

第 18 回 伊那地域定住自立圏共生ビジョン協議会 会議録

開催日	令和 7 年 9 月 26 日（金）			
開催時間	開 会	午後 1 時	閉 会	午後 2 時半
開催場所	伊那市役所 501・502 会議室			
委員出席者	伊那市区長会 箕輪町区長会 南箕輪村区長会 伊那市社会福祉協議会 伊那商工会議所 箕輪町商工会 南箕輪村商工会 上伊那農業協同組合 伊那バス（株） ジェイアールバス関東（株） 伊那支店 伊那タクシー（株） 長野県宅地建物取引業協会 南信支部 NPO法人子ども・若者サポート はみんぐ 上伊那 P T A 連合会			
欠席者	伊那中央行政組合 上伊那森林組合 伊那市観光協会 伊那市保育園保護者連合会 信州大学 公募			
委員以外の出席者	アドバイザー（上伊那地域振興局企画振興課） 中谷 俊禎			
出席した事務局職員等	伊那市企画部長 伊那市企画部地域創造課長 箕輪町企画振興課長 南箕輪村地域づくり推進課長 伊那市企画部企画政策課長 伊那市こども部こども政策課長 伊那市総務部総務課長 伊那市商工観光部産業立地推進課長 伊那市総務部秘書広報課長 伊那市企画部企画政策課長補佐 伊那市健康福祉部福祉相談課相談支援係長 伊那市企画部地域創造課移住定住促進係長 伊那市企画部地域創造課移住定住促進係 伊那市企画部地域創造課移住定住促進係 伊那市企画部地域創造課移住定住促進係			
議 事	（１） 第 3 期伊那地域定住自立圏共生ビジョンの策定について			
配布資料	資料 1 第 3 期伊那地域定住自立圏共生ビジョン（素々案） 資料 2 第 3 期伊那地域定住自立圏共生ビジョン KPI について 資料 3 第 3 期伊那地域定住自立圏共生ビジョン策定スケジュール			

1 開 会（進行：飯島企画部長）

2 委嘱書交付

3 市長あいさつ

伊那市、箕輪町、南箕輪村で構成される伊那地域定住自立圏において、広く様々な取り組みに対してご意見を頂戴するため、各種団体からご推薦及び公募いただいた皆様を委員として委嘱させていただきました。伊那地域定住自立圏構想の更なる進展に向け、それぞれの立場で、格別のご理解とご協力をお願いしたい。

経済や生活の結びつきが強い近隣自治体間の連携を深めながら、将来にわたって安心して暮らせる魅力的な地域づくりに取り組むため、平成 28 年に伊那地域定住自立圏の協定を締結した。それに伴い、圏域の将来像また具体的な事業を定めた伊那地域定住自立圏共生ビジョン（以下、共生ビジョン）を策定し、今年で 9 年目となる。

これまで第 2 期共生ビジョンに基づいて、3 市町村が互いに役割分担と連携、協力を図りながら、住民がこの圏域で安心して暮らし続けるための政策を展開してきた。例えば、伊那本線の運行、子育て拠点施設の相互利用、空き家バンクの充実、ぐるっとタクシーの運行などが挙げられる。今年度は第 2 期共生ビジョンの最終年度であるため、委員の皆様には来年度から 5 年間の指針となる第 3 期共生ビジョンの策定に向けてご協議をいただく予定となっている。今後も圏域全体の生活機能を確保し、地方圏における定住の受け皿を形成するためには、現行の事業を推進していきながら、より実効性の高い施策や事業にも取り組んでいく必要がある。委員の皆様には、この地域の将来像をともに描き、誰もが、安心安全で豊かな暮らしの実現が図られるよう、熱心なご協議、また積極的なご意見、ご提言をいただきたい。

4 自己紹介（委員、アドバイザー、事務局）

5 正副会長の選出

以下のとおり承認

会 長：伊那市区長会 長田 幸男 氏

副会長：箕輪町区長会 千葉 稔 氏、南箕輪村区長会 征矢 和彦 氏

6 あいさつ（会長：長田 幸男 氏）

7 月に開催された第 17 回当協議会では、共生ビジョン令和 6 年度の実績や、令和 7 年度の実施計画についてご協議いただいた。また、今年度は第 3 期共生ビジョンの策定の年であるため策定スケジュールについても示された。今回から次期の共生ビジョンに盛り込む具体的な取り組みなどを委員の皆様にご協議いただくことになる。この地域が 3 市町村の住民の皆さんにとって住みやすい地域となるような共生ビジョンの策定に向けて、活発な議論をお願いしたい。

7 会議事項（議長：長田会長）※協議会条例第 6 条の規定による

（１） 第 3 期伊那地域定住自立圏共生ビジョンの策定について（資料 1 及び資料 2）

資料に沿い、各部長から説明

【質疑応答】

委員：一般の子育て支援センターでは未就園児が対象であるが、福祉部会の取り組みの対象となる子どもの年齢はいくつか。

事務局：事業ごとに対象児童年齢を設けている。ファミリーサポートセンターは就学児までが対象であり、子育て支援センターは未就園児が対象である。

委員：「いいな電子@連絡帳」とはどのようなものなのか説明いただきたい。

事務局：要介護認定された方は、在宅で様々な介護保険サービスを使うことになる。その際に、かかりつけ医や、ヘルパー、デイサービスの事業所、ケアマネージャーなどが、要介護認定された方の情報を「いいな電子@連絡帳」に登録することで、その方についての連絡が取りやすくなる。また、この連絡帳には研修会や会議などの情報を流すこともでき、多くの方に呼びかけることができる。

委員：要介護認定を受けた方の家族ではなく、ケアを行う方々が使用するものということに理解した。

委員：医師が乗らない移動診療車「モバイルクリニック」事業について、第2期共生ビジョンでは事業概要に「薬剤師」という文言があったが、今回はない。この経緯について説明いただきたい。

事務局：薬剤師による服薬指導は継続していく。薬局は2機関が参画いただいている。

委員：ICT ツールの活用については、目標値も登録割合も増やしていくということであるが、実際に自らが活用していた経験から、活用する人が ICT ツールを使い慣れていないと感じている。登録しただけでは活用に結び付かないと考えられるため、ぜひ実際に使う職員や専門職が使いこなせるよう、定期的な研修等を多く行ってほしい。

委員：自身は主に小中学校の不登校の子どもたちの支援を行っている。共生ビジョンの事業内容をみると、未就園児や未就学児が主な対象と見受けられるが、もう少し対象となる子どもの年齢の幅を広げていただきたい。

近年、不登校の小中学生が全国で年間35万人を超えるといわれている。地元の子でも不登校になる子の数が相当増えている中で、藁にもすがる思いで移住してくる方がいる。その方々の中には、情報が無いために孤立し、とても苦しい状況にある方が何人もいた。そういう方が何かしらのサポートを受けられることがわかる共生ビジョンとなるとよい。せめて対象となる子どもの年齢の幅を広げていただいたり、相談窓口を開設いただいたり、圏域で連携して何かしらの事業を行っていただきたい。

箕輪町も教育に大変力を入れており、学校教育を変えていこうと頑張っているため、以上のような事業を少し盛り込んだ共生ビジョンになるとよい。第3期共生ビジョンに記載が難しいようであれば、将来に向けて考えていただきたい。

事務局：この場で具体的な事業の話をするのは難しいが、今後検討していきたい。

(2) 助言（上伊那地域振興局 企画振興課長 中谷 俊禎 氏）

感想を述べたい。この地域の一番の特徴は、将来にわたり地域住民が安心して暮らしていける魅力的な地域づくりにあると考える。これまでの第2期共生ビジョンでも、このような地域づくりを進めてきており、この成果もあって、人口減少を比較的抑えられてきている。2015年と2020年の人口をみると、南箕輪村は増加し、伊那市と箕輪町は減少しているが、最近の統計では、伊那市と箕輪町は社会増となっている。産業面においても、転出者がいるという課題はあるものの、十分な働き口があり、非常に安心して暮らせる地域だと改めて感じた。

本日様々な施策等を説明していただいた。中心市である伊那市においては役割が大きく、負担もあると思うが、ご意見にもあったように、3市町村で取り組むとやはり安心する地域づくりが深まると考える。3市町村の皆様で協力していただき、より高い成果が得られる共生ビジョンとなるよう検討を進めてもらいたい。

8 その他

【第19回伊那地域定住自立圏共生ビジョン協議会】

令和7年11月20日（木）午前の開催で調整中。

※通知等は改めて送付する。

9 閉 会